

学習者と共同デザインした上級（B2 レベル）コース

大野唱子

シドニー日本文化センター

基本情報

実施機関名	シドニー文化センター
実施コース名	上級コース レベル： B2-2
実施日時または期間	2016年 三学期・四学期
授業時間	110分@1コマ 週1回 x 10週間
授業担当講師	報告者 大野唱子（おおの・しょうこ）
1クラスの学習者数	三学期：14人 四学期：11人
学習者の属性 第三学期	性別：男性8人 女性6人 年齢：20代3人、30代5人、40代4人、50代2人 職業：大学生2人、会社員12人
学習者の属性 第四学期	性別：男性7人 女性4人 年齢：20代2人、30代4人、40代3人、50代2人 職業：大学生1人、会社員11人
使用教材	生教材

1. 実践の背景

1.1 これまでの状況

シドニー日本文化センターでは、上級コース（B2-2）は、JF スタンドに準拠した通年の講座であり、担当教師が学習目標を Can-do で設定した上で生教材を使用している。当センターの JF 講座には「卒業」を設けていないため、上級の学習者がその年のコースが終了後も、翌年「上級」に在籍し続けるケースが多い。一方で中上級コース（B2-1）修了者が上級へ進級するため、必然的に上級コースは、学習者の日本語レベルに個人差のあるクラスとなっている。

この状況を受け、2017 年度より、上級の次の段階のレベル超上級「達人」コース（B2-2/C1）を開設、現在に至っている。報告者は 2015 年度より JF 講座に携わり、2016 年度に「上級」コース、2017 年度は「達人」コースを担当した。

1.2 問題意識

シドニー JF 講座は 2005 年度、「市井の語学学校ではなかなか提供できないであろう」上級コースを、翌年から順に中上級、中級、とレベルを揃えながら開講してきた。上級コースについては、2013 年度まで市販の中上級・上級向け教科書を複数冊、部分的に使用しながら授業を行ってきた。2014 年度から 2015 年度末までは『トピックによる日本語総合演習—テーマ

探しから発表へー上級』(スリーエーネットワーク)を、JF スタンダードに合わせながら進めてきたが、2年後には同じ教材で前年度とほぼ同じコースを受講した学習者が出てきたため、2016年より新しい教材を用いる必要性が出てきた。これはJF講座開講当初の2005年から現在まで続けて在籍している受講生がいることによる。彼らがこの先も在籍し続ける可能性も考慮し、上級コースでは2016年度から学期ごとに生教材を編集・使用することになった。

ところが、前述したように、これまでJF講座の上級に恒常的に在籍している学習者と新規で中上級クラス(B2-1)から進級してきた学習者との間には、日本語の能力差はもちろん、日本での経験、年齢差、社会経験の差、そして学習動機も大きく異なっている。その中でまず教師・学習者ともに直面する問題は、学習者間の日本語の能力差の問題である。日本語能力の違いから、学習者の中に不満が芽生え、「つまらないから」と受講を諦めることにならないよう、学習意欲を保持させるためにはどうしたらよいかを、模索する中で「日本語で勉強してみたいこと」「日本に関して興味のあること」などを話し合ってもらい、学習者がトピックを決めるのはどうだろうか、という考えが閃いた。

決められた教科書に沿って勉強するのではなく、JFスタンダードの考え方を活かし、学習者の興味関心に合わせたバラエティ豊かな生教材を準備し、内容的により充実したコースをデザインしていくにはどうしたらいいか。これまでも学習者のニーズに沿った内容でコースを構成したいとの思いから、毎学期末にコースに関する希望を訊ねるアンケートをとってきたが、コース内容を一律にまとめにくい状況にあった。そこで、教師が各々の学習者の要望を拾うのではなく、クラス全体で勉強内容を話し合った上で、学習目標となるCan-doも学習者とともに選択し、コースデザイン全体に関わる方法を実践してみよう、と考えた。

この報告書では、主に、2016年三学期(7月～9月)及び四学期(9月～12月)の実践について述べる。また、2017年から現在までの超上級「達人」コースの状況にも言及したい。

2. 実践内容

2.1 期待される成果

今回の実践は、以下の三点を目標に行なった。

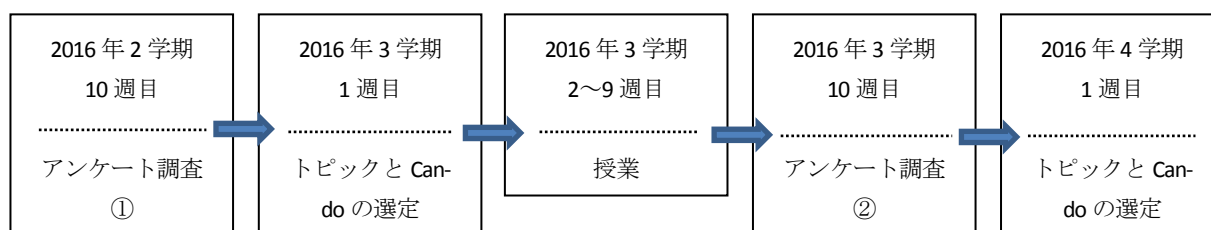
- Can-do設定およびトピック選択に学習者自身が関わることにより、コースの設計が学習者主体になり、自律学習の意識が芽生える。
- Can-doをクラスメートと話し合いながら選択することによって、個々人の「何ができるか」「何ができるようになりたいか」という目標も明確になり、学習に取り組みやすくなる。
- トピックを自分たちで考察・選択することによって、学習内容がより身近になり、学習動機も高まる。また、クラス外での情報収集や活動に関心がより強まり、結果的に勉強

に対する意識も変化する。

上記3点が達成されることにより、JFスタンダードに準拠した上級コースの改善につながると考えた。

2.2 Can-do 設定およびトピック選択の作業

Can-do 設定およびトピック選択の作業は、以下のような手順で行なった。2016 年三学期を例に手順を示す。



【図1：Can-do 設定およびトピック選択作業の流れ】

【図1】の手順を以下に詳述する。

まず、二学期の最終週に、三学期で勉強したい内容を問うアンケート調査を行った。そして、三学期の最初の授業でそのアンケート調査の結果をもとに、三学期に勉強したいトピックを学習者間で話し合い、各自、勉強したいトピック上位3つに番号をふってもらった。次に、教師がコースレベルに合った Can-do (ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) より抜粋) を提示し、どの Can-do を目標として立てたいか話し合い、目標としたい Can-do 上位3つに番号をふってもらった。そして、学習者がふった番号を集計し、三学期の授業で扱うトピックと Can-do を選定し、それらを10週に振り分け、コースを編成した。選定された Can-Do は、授業ごとに明示した。また学期中の評価はこれらの Can-Do に従って行なわれた。最後に、コース終了時に、コース全体の評価と次の学期で勉強したい内容についてのアンケート調査を行った。

2.3 三学期の実践内容の詳細

2.3.1 トピックと Can-do の選定

アンケート調査の結果、以下のような回答が得られた。同じまたは類似した回答も見られたため、複数回答数をカッコ内に記した。回答者数は9名(2学期の受講者数は14名)。

<ul style="list-style-type: none"> • 短編小説を読む (5) • 映画を鑑賞する (4) • 日本語能力試験 N1 レベルの文法や語彙 (3) • ビジネス日本語 (2) • 敬語 (2) • ポップカルチャー (マンガなど) (2) • 論説体 • 作文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> • グループで発表する • ドラマを見る • 関西弁などの方言 • 日本のことわざ • 2020年の東京五輪について • 日本人の長寿の秘訣 • 女性と権利 (皇室など) • 移民政策
---	---

<ul style="list-style-type: none"> • 聴解問題をする • ニュースの記事を読む • 短・中・長文を読む 	<ul style="list-style-type: none"> • 本音と建前 • ウチとソト
--	--

アンケートは「自由に書いてください」と設定したため、勉強したいトピックと勉強方法、実践項目が分け隔てなく上がってきた。そこで「作文を書く」「聴解問題をする」「短編小説を読む」「映画を鑑賞する」などは「トピック」に入れず、教材を選択・作成する時点で反映させることにした（小説や映画に関しては、希望する内容についてすでに前学期終盤で話し合っていたため、すでにコースに組み込むつもりであった）。その上で、トピックを以下の6つのカテゴリー（仕事、健康、日本人など）に整理した。

1. 仕事	(1) ビジネス日本語 (2) 敬語 (3) 日本人と仕事 (4) 女性と仕事
2. 健康と食生活	(5) 日本人の長寿の秘訣 (6) 食文化
3. 日本人	(7) 本音と建前、ウチとソト (8) ムラ社会 (9) 日本人の習慣
4. 教育	(10) いじめ・不登校 (11) 学歴社会などの学校の問題
5. 日本と日本語	(12) 日本語の方言 (13) 日本のことわざ (14) 日本の地域の特色
6. 時事問題	(15) 2010年東京オリンピック (16) 死刑制度 (17) 日本人とロボット (18) 原子力 (19) 移民 (20) 憲法改正論 (21) ポップカルチャー (22) 皇室と女性

項目4「教育」の2トピックと、6の「時事」に含まれる「死刑制度」は、前学期に勉強する予定だったが、時間の制約で行なえなかったため加えた。(17)「日本人とロボット」と(19)「移民」は、前学期中盤からすでに希望として口頭で提示のあったものであり、(18)「原子力」、(20)「憲法改正論」は、2016年に日本で大きく取り上げられ教室内でも関心が高まっていたため、「ニュースの記事を読む」という希望に合わせ取り入れた。

上掲のトピック候補リストを見ながら、2-3人の小グループに分かれ、どのトピックに関心があるか話し合った。そのあと全体で意見交換を行い、最後に各自で勉強したいトピックを上位三つまで、順位をつけるように指示した。この話し合いは大変熱心に行なわれ、全体での意見交換も活発であった。学習者がふった番号を集計し、票の多かったものから優先的に10週に組み込んでいった。選ばれたトピックとコースの概要は、資料1-1のCourse Overview

及び資料 1-2 を参照のこと。

村上春樹の短編小説「トニー滝谷」(全 32 ページ) は、二学期に出された「ハルキ・ムラカミの小説を読みたい」という希望を汲み、取り上げることにした。また映画化もされており視聴に適していると判断し、10 週目に映画も導入した。小説は第 2 週から第 9 週までの 8 週間に渡って分読し、随時読解問題や内容理解の設問、討論を織り交ぜながら読み進んだ。一週目に 8 段落に区切った小説をまるごと受講生に渡し、各週でどの箇所を読むか明示した。このため、ほとんどの受講生が「宿題」としてその週の部分を前もって読み、授業に臨んでいた。

次に、Can-do の選定を行った。まず、コースの年間目標にあたる Can-do を再確認した。次に、教師が予め選んでいた学期目標にあたる Can-do (ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) より抜粋) を提示し、簡単に解説した。その後で再びグループに分かれて話し合い、全体で共有した後、やはり目標として立てたい Can-do を上位三つまで順位をつけるように指示した。提示した Can-do の詳細は、資料 2-1、資料 2-2 を参照のこと。

この活動では、若干戸惑いが見られた。一つ一つの Can-do に関し英語で説明し、理解を促したが活発な話し合いにはならず、とにかく各自でこれと思う Can-do 三つを選択してもらうに留まった。のちに集計してみると、一つしか選んでいない人、単に三つマルをつけている人など回答にもばらつきがあった。その理由として考えられるのは、①上級コースの受講生は「まるごと・日本のことばと文化」を使って勉強してきた「まるごと育ち」ではないため、Can-do に馴染みが薄い、②中上級以上でコースの途中から編入してきた受講生は、Can-do そのものに理解が及んでいないという点が挙げられる。

2.3.2 評価 Can-do の作成

評価の時期とその方法は教師が考え、学習者によって選ばれた Can-do をもとに自己評価できるように準備した。

① 自己評価とクラスメート評価

「日本の地域と特色」の発表では、Can-do を意識して発表が行えたかどうか、まず自己評価表に書き込んでもらった(資料 3 参照)。また、クラスメートの発表のあとで、発表に関するコメントなどを別紙に自由に書く時間をとった。この「感想文」の評価は、教師に提出後、発表者に渡した。

② 教師評価

発表後、自己評価表を教師が回収、学習者の評価の下に教師が評価し、コメントを添えた。

また、映画評を書くタスクでは、「映画評を書くことができる」(B2-1) という Can-do が設定されていたが、この「映画評を書くことができる」だけでは評価につなげにくいので、「複数の考えを相互に関連付け、明瞭かつ詳細に映画評を書くことができる」(B2-2) と My Can-

7. 文法	JLPT N1 の練習	聴解問題	論説文
8. 読む	短編小説を読む		日本人論を読む
	日本人なら必ず読む小説を読む		

三学期と同じ手順でトピックの選定を行った。最初はペア、次にクラスで話し合った際、「映画と小説は必ず勉強したい」と強い要望があった。学期中に日本映画祭が催されることもあり、映画熱でクラス全体の雰囲気盛り上がっていた。特に強い希望のあった「映画」「小説」「ビジネス日本語」「時事問題」「日本人論」の5トピックに絞り、10週間を構成した。また不人気だった、長く話す「発表」を省いた。代わりに映画祭より好きな映画を二本選び、手短かに紹介する、という活動を取り入れた。選ばれたトピックとコースの概要は、資料5-1、資料5-2を参照のこと。

2.4.2 コース後のアンケート

コースデザイン・Can-do 達成についてのアンケートでは、11名中7名の回答が得られた。ここでも「今学期のコース内容は構成についてどう思いましたか」と質問し、コースデザインに関する感想を自由に述べてもらう形式にした。

「とても面白かった」「こういうスタイルのほうが、教科書で勉強するよりいい」と引き続き好評であることが窺えた半面、「短い期間に内容を詰め込みすぎたかも」「内容が盛りだくさん過ぎた」とトピックの量が多すぎたと示唆する反応もあった。また「先生が準備するときに大変です」と教師の授業準備の大変さを懸念する声もあった。Can-do の達成度を測る設問では「ほとんど達成できた」が6名、「半分程度達成できた」が1名と、先学期よりも格段に改善が見られた（資料6-1と資料6-2を参照のこと）。

3. 実践の成果と全体所感

三学期・四学期とも、第九週目の後半で振り返りを行ない、アンケートに回答してもらった。振り返りではコースの感想を口頭で自由に述べてもらった。

前述したように、今回の実践に際し、学習者の自律学習に対する意識向上に関連して、以下の2点の成果が期待されていた。

- Can-do 設定およびトピック選択に学習者自身に関わることにより、コースが学習者主体になり、自律学習の意識が芽生える。
- トピックを自分たちで考察・選択することによって、学習内容がより身近になり、学習動機も高まる。また、クラス外での情報収集や活動に関心がより強まり、結果的に勉強

に対する意識も変化する。

コース全体を通して、与えられた教科書で順に勉強を進めるという受動型から、勉強してみたいトピックを定め、能動的に学習に取り組むという方法で、学習者主体という意識は芽生えたように感じられた。それまでは「とにかく日本語を上達させたい、だからあるもの（既存の教科書）を何でも読んでみる」という姿勢だったが、「もう自分の勉強したいこと、読みたいもの、話し合ってみたいことを決定し、取り組むだけの力があることが分かって嬉しかった」（30代女性）というコメントが寄せられた。

また、「何を学びたいか」「何を避けたいか」と学習者自身のニーズをはっきりさせるよい機会にもなったようだ。50代男性の受講生二人は「実際に日本語で何を実現したいのか」と自問自答し、その上で他の学習性が提示したトピックの候補を眺め「これは別に興味ない」もしくは「学習時間が限られているのだから、このトピックで勉強するなら他のものを選びたい」と改めて自らの学習動機を振り返る時間になった、と述べていた。興味のあるトピックで日本語を学習するメリットの一つとして、30代男性は「このトピックの、この単語は／漢字はどうしたって覚えておきたい、とモチベーションが上がって良かった」と振り返っていた。トピックを自ら選ぶことで学習意欲が向上し、自律学習に肉付けするよい機会につながったようだ。アンケートの結果全体を俯瞰して、学習者が中心になってトピックを決定する方法は受け入れられたと言えよう。「来学期も自分達でトピックを選びたい」「特にいい方法だと思います」といった声、また「いろいろなトピックを勉強するのは本当によかった」「日本語を幅広く学べてよかった」というコメントからも、学期を通じて、興味のあるトピックゆえに積極的に学習に取り組んでいたことが窺える。

また、上掲の2つの成果目標に加え、Can-doの選択・使用に関し、以下の成果が期待されていた。

- Can-doをクラスメートと話し合いながら選択することによって、個々人の「何ができるか」「何ができるようになりたいか」という目標も明確になり、学習に取り組みやすくなる。

Can-doの選択・実践に関しては、三学期の実践を通して、改善の余地があると考え、四学期は目標としてのCan-doに関しては、トピックごとに教師が立てる方法に急遽変更した。その理由として、一学期目、二学期目は常にCan-doを意識してコースを組み立て、授業でもCan-doを前面に出して指導してきたが、想定していたよりもCan-doに対する学習者の理解と意識が高くないようであること、「このCan-doを実践するためのトピック」というよりは「このトピックを学びながら、Can-doも達成できたら御の字」というような副次的な感覚であることから、Can-doだけを選択することの意義が薄いように感じられたこと、が挙げられる。

この実践を終了してから、「学習目的にCan-doを立て、学習後に振り返る」というJF講座

に最も特徴的な学習方法が、このクラスの学習者に根付いていないどころか、2016 年まで紹介・導入すら明確に行われてこなかったという経緯が明らかになった。2016 年一学期から報告者が上級クラスを引き継ぎ、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) を基盤とした Can-do を示しながらコースをデザイン、一学期、二学期と授業を進めてきたものの、三学期目でそのような背景の学習者が突然啓蒙されるわけもなく、これまで Can-do の意義や課題遂行の重要性などが漫然としか理解されてこなかったことが浮き彫りになった。当然ながら課題遂行に対する意識も高くないであろうことを実践当初から認識しておくべきであった。

この反省を反映させるべく、2017 年に開講した超上級「達人」コースでは、一学期目にヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) と JF Can-do を改めて紹介、課題遂行型学習の行い方を再導入、以後学期の第一週目に学習者側からのトピックの示唆・提示に併せ、学習目的としての Can-do を評価に取り入れることを明示・強調している。また毎週の授業でも Can-do を提示したうえで頻繁に言及、授業外でも意識してもらえるように工夫を重ねることで Can-do 方式の定着を図ろうと試みている。

しかしながら、入門や初級から「まるごと・日本のことばと文化」を通じ Can-do を基盤とした学習方法に慣れている受講生と違い、様々な学習歴を持つ上級の受講生に課題遂行型の学習法が根付くかどうか。また根付くために必要な時間はどれほどものものか。上級からの Can-do 方式定着は将来に向けての大きい課題であるが、以上のような理由で四学期目は学習者の選んだトピックに合わせ、教師が Can-do を選択することにした。

三学期と四学期とでは、参加者の人数に変動があった (14 名→11 名)。四学期目は後半から、半数以下の 4、5 人で授業を進める、という日も多くなった。これには毎年 12 月は夏季・クリスマス休暇の入り口で、受講生も欠席しがちになるという背景がある。教室内の人数が減れば減るほど、一人ひとりの発言の機会が増え、討論が充実し、授業の進行が遅くなる傾向にある。これは周囲をあまり気にせず丁寧にじっくり勉強する雰囲気が生まれるからかと察せられる。進度が遅れた分、週によっては予定を全うできず、翌週に繰り越すこともあった。

受講者数が少ない場合、一学期分のトピック数を減らし、各トピックをより深く、時間に余裕を持って取り組むほうが成果が上がるように思われた。人数が多くレベルの差が顕著な場合には、詳細にこだわらず時に押し切って進める必要もあり、三学期目はパワーで乗り切った感もあった。どちらの学期も、どの学習者にも喜んでもらおうとするあまり、トピックを拾いすぎ、結局網羅できない箇所が出てしまった。アンケートを取った以上は結果を全て反映させたいという要求に駆られ、授業内容が詰まり、駆け足になってしまったところがあった。

4. これからの課題

2017 年度も、ほぼ同じ方法を用いて「達人」コース運営に携わっている (受講者数：一学

期 9 名、二学期 5 名、三学期 9 名、四学期 5 名)。今年度は開講当初から少人数であったことに鑑み、年度の初めに取った「勉強したい内容に関するアンケート」を基に通年の授業内容を計画した。ここでは学習者は勉強したい内容を述べるに留まり、トピックの選別は行わず、教師側は年間を通してすべての希望を取り入れられるようにトピックを配分し、それに従ってコースをデザインしている。

トピックが決定する一方で、Can-do の選別ならびに上級および超上級コースでの Can-do の応用方法には検討が必要である。2016 年度三学期・四学期を通しての反省は、選んだ Can-do と学習内容が乖離してしまった点であろう。

JF スタンダードに則って構成された教科書『まるごと ー日本のことばと文化ー』では、Can-do 達成を念頭において進行する構造となっている。いわば「Can-do ありき」と言える。ところが自らトピックや勉強内容を選択する上級学習者にとっては、「内容ありき」で Can-do の達成は二の次に陥りやすい。直接の学習目標は「この」小説を読み通すこと、であり、例えば「意味や文体の微妙な違いを味わい、明示的な意味と暗示的な意味をも味わいながら、長い複雑なテキストを理解できる (C2)」といった、すべての「長いテキスト」に当てはまるような Can-do は適当とは言えず、身近な目標として機能しない恐れがある。上級になればなるほど、「この」小説が読みたい、「この」映画を見て理解したい、「この」時事問題を理解したい、と目的が固有の事象に特化してくる以上、Can-do もまた内容別に特化したものを教師が用意する必要があるだろう。

ここで直ちに浮上してくる問題は、「上級」「超上級」のレベルを保ちながら、勉強内容に合った達成しうる現実的な My Can-do を編集する、という離れ業ができるか、という点にある。教師が時間をかけて JF スタンダードおよびヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)の研究を行い、研鑽を積み、学習者のニーズとすり合わせるといった試行錯誤を重ねるより他に方法はないであろう。

なお、2017 年度の二学期・三学期には、上級・超上級クラスにて、「B2 教材シリーズ①～④」を試行する機会に恵まれた。将来、オンラインで公開される予定の上級教材だが、このシリーズにおける Can-do の在り方が大変参考になったことを付け加えておきたい。

資料1 Can-Doを選ぶ（ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）より抜粋）

学習者に提示した際は、英語も併記した。ここでは省略する。

学習目標

年間学習目標

1. ざっと目を通しただけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。
2. 自分の考えや意見を正確に表現できる。また、複雑な筋立ての議論に対し、説得力をもって見解を提示し、対応できる。
3. いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細なテキストを書くことができる。
4. 事実や、想像上のことを記述したさまざまなテキストを要約し、対照的な観点や主要テーマについてコメントしたり、議論することができる。

（すでに決定している Can-Do）

- 小説などを読んで、出来事の経過や登場人物の行動の動機など、内容を理解することができる
- 人間ドラマやラブロマンスなどの映画を見て、話の筋を追い、登場人物がどのように葛藤や障壁を乗り越えたかなどを理解することができる

3つ選んで優先順位をつけてください。

- a) 意味や文体の微妙な違いを味わい、明示的な意味と同時に暗示的な意味も味わいながら、幅広い分野にわたって、さまざまなテキストを理解できる
- b) 映画や本、演劇の評を書くことができる
- c) 自分が関心を持つさまざまな話題について、明瞭、詳細に書くことができる
- d) テレビニュースや新聞記事をきっかけに、裁判員制度などの社会的な問題について、死刑制度廃止や少年法改定の議論などの関連事項と結びつけながら、自分の視点を明確に述べることができる
- e) 自分が関心を持つさまざまな話題について、明瞭、詳細に書くことができる
- f) 予め用意されたテキストから自然に離れて、聴衆が喚起した興味ある事柄に対応できる。そこで非常に流暢に、楽に表現ができる
- g) 内容的にも言語的にも複雑な講義、話、報告、そのほかの学問的／専門的なプレゼンテーションの要点は理解できる
- h) その場の状況や、聞き手に応じて、内容、話し方を調節することができ、その場の状況にふさわしい丁寧さの言葉遣いができる
- i) 上手に発言権をとって、会話を始め、続け、終えることができる
- j) 言葉そのものに集中しすぎて、情報を時には聞き逃す傾向もあるが、身近な話題で明確に組み立てられた講義なら理解でき、重要だと感じた点をノートに取ることができる

		Lesson content	Can-Do	Task
W1	時事	- コースオリエンテーション - 三学期の学習内容を決める - 「欠損女子」を読み、話し合う	ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。	
W2	ビジネス 日本語 1	- 「サラリーマン生活のことわざ」 - 会社場面の聴解問題 - 敬語・ロールプレイ - 「トニー滝谷」を読む ①	①その場の状況や、聞き手に応じて、内容、話し方を調節することができ、その場の状況にふさわしい丁寧さの言葉遣いができる。(W2 & 3) ②小説を読んで、出来事の経過や登場人物の行動の動機など、内容を理解することができる。(W2-W9)	
W3	2	- ビジネス文書の書き方 - 「トニー滝谷」を読む ②	ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。	ビジネス文書
W4	食文化	- 「日本の食文化・うなぎ」 - 「トニー滝谷」を読む ③	①ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。 ②言葉そのものに集中しすぎて、情報を時には聞き逃す傾向もあるが、身近な話題で明確に組み立てられた講義なら理解でき、重要だと感じた点をノートに取るることができる。	
W5	ポピカル	- 漫画・動画をもとに日本のポップカルチャーを論じる 「トニー滝谷」を読む ④	①自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確に詳しく述べることができる。②自分の考えや意見を正確に表現できる。また、複雑な筋立ての議論に対し、説得力をもって見解を提示し、対応できる。	
W6	方言	- 「方言のクッション」 「すみません」を方言で比較 - 「トニー滝谷」を読む ⑤	①ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。 ②自分が関心を持つさまざまな話題について、明瞭、詳細に書くことができる。	作文
W7	日本人	- 「『他人に嫌われること』を気にしてはいけないの?」 - 「『ウチとソト』の文化」 - 「トニー滝谷」を読む ⑥	意味や文体の微妙な違いを味わい、明示的な意味と同時に暗示的な意味も味わいながら、さまざまなテキストを理解できる。	
W8	発表 1	- 「日本の地域と特色」 - 「トニー滝谷」を読む ⑦	①内容的にも言語的にも複雑な講義、話、報告、そのほかの学問的/専門的なプレゼンテーションの要点は理解できる。	自己評価 / コース評価
W9	2	- 「日本の地域と特色」 - 「トニー滝谷」を読む ⑧ - 読了後、小説について話し合う	② 予め用意されたテキストから自然に離れて、聴衆が喚起した興味ある事柄に対応できる。そこで非常に流暢に、楽に表現ができる。	
W10	映画鑑賞	- 「トニー滝谷」映画鑑賞	①映画を見て、話の筋を追い、登場人物がどのように葛藤や障壁を乗り越えたかなどを理解することができる。②映画評を書くことができる	映画評

資料 2-2 使用教材

		Lesson content	使用教材	評価
W1	時事	- コースオリエンテーション - 三学期の学習内容を決める けっそんじよし - 「欠損女子」を読み、話し合う	インターネット記事 The Women's topics 「ウトピ」より「欠損女子」	
W2	ビジネス日本語 1	- 「サラリーマン生活のことわざ」 - 会社場面の聴解問題 - 敬語・ロールプレイ - 「トニー滝谷」を読む ①	1) 中・上級日本語教科書 日本への招待 p.103-105, 119-120 「サラリーマン生活のことわざ」 2) 「日本語能力試験公式問題集N1」より聴解問題抜粋 3) 日本語で働く！ビジネス日本語 30 時間 p.102- 113 「アポイントをとる」 4) 【W2-W8】村上春樹著「トニー滝谷」(「レキシントンの幽霊」文春文庫 所収)	
W3	2	ぶんしょ - ビジネス 文書 の書き方 - 「トニー滝谷」を読む ②	日本の社会と経済を読む Reading on Japanese Society and Business (研究社) p.108 - 113	ビジネス文書 「社外文書を書く」
W4	食文化	- 「日本の食文化・うなぎ」 - 「トニー滝谷」を読む ③	1) 文化中級日本語Ⅱ 凡人社 p.176-180 2) 朝日新聞 2016.8.8 「今上天皇、ビデオメッセージで「お気持ち」を表明」	
W5	ポプカル	- 漫画・動画をもとに日本のポップカルチャーを論じる 「トニー滝谷」を読む ④	1) 古賀令子「『かわいい』の帝国」 2009 2) 四方田犬彦「かわいい論」序文 3) 稲増龍雄「AKB旋風で新しいアイドルが生まれ、テレビの凋落が鮮明になった」	
W6	方言	- 「方言のクッション」 ひかく 「すみません」を方言で比較 - 「トニー滝谷」を読む ⑤	ジャンル別日本語：日本をクリティカルに読む p.161-167	作文「方言が失われることは深刻な問題ですか」
W7	日本人	- 「『他人に嫌われること』を気にしてはいけないの？」 - 「『ウチとソト』の文化」 - 「トニー滝谷」を読む ⑥	1) 協働で学ぶクリティカル・リーディング・「私と他者」西研 p.107 イー オ リョン 2) 李 御寧 「縮み志向の日本人」より「トロッコといかだ」	
W8	発表 1	- 「日本の地域と特色」 - 「トニー滝谷」を読む ⑦		発表時の自己評価/クラスメートの評価 コース評価
W9	2	- 「日本の地域と特色」 - 「トニー滝谷」を読む ⑧ どくりょう - 読了 後、小説について話し合う		
W10	映画鑑賞	- 「トニー滝谷」映画 鑑賞 かんしょう かんしょう	映画「トニー滝谷」 監督：市川準	映画評

自己評価表 Self-evaluation

だいもく

題目：「日本の地域と特色」地域名：

名前：_____

			もっとがんばりたい	まあまあできた	できた	よくできた
発表をする	準備	説得力のある、わかりやすい発表を準備できた。				
	内容	自分の考えや意見を正確に表現できた。				
	表現力	聞き手が理解できるような声量・速度で、なめらかに楽に表現できた。				
	やりとり	活発な議論を促すことができた。聞き手から出された質問や話題に対応できた。				
発表を聞く	聴解力	話し手の視点が聞き取れた。				
	理解力	発表の要点を理解し、自分の意見をまとめられた。				
	やりとり	疑問に思った点を質問できた。討論に参加できた。				
あなたのコメント						
教師のコメント						

Advanced Course

Term 3 2016

映画評「 トニー滝谷 」

名前 _____

複数の考えを相互に関連付け、明瞭かつ詳細に映画評を書くことができたと思う。I think I could write a review of a film with detailed descriptions, making the relationship between ideas in clear connected text.

教師コメント

資料 4-1 三学期コース終了時（第9週）に施行したアンケート

三学期コース終了時のアンケート結果 （回答者：9名）

A. 今学期は、トピックや勉強内容をみんなで選びました。どうでしたか。感想をお願いします。

（アンケート結果）

- A very rich and balanced mix of topics and skills
（「内容豊富なトピック、技能もバランスよく伸ばせた」）
- It was good. I want to choose study topics in the next term as well.
（「よかった。来学期も自分達でトピックを選びたい」）
- いろいろなトピックを勉強するのは本当によかったと思います。ふつう自分で考えない話題を勉強になってよかったです。
- 今学期はとてもおもしろかった。ビジネス日本語も小説はとても楽しかった。次学期もビジネス日本語をきょうみがあります。
- 色々な課題や単語を学べてよかった。トピックも面白いです。
- 日本語を幅広く習えました。特にいい方法だと思います。
- 読書の時、もっと理解をチェックするための質問が入ったらいいと思います。
- Enjoyed the reading of *Tony Takitani*. Would like to do something similar.
（「『トニー滝谷』が読めてよかった。また似たような活動をしたい」）
- おもしろかったと思います。

B. 今学期は、Can-do もみんなで選びました。Can-do を達成できたと思いますか。

ほとんど達成できた	半分程度達成できた	あまりできなかった	全然	その他
3	6	0	0	0

1. 2016 年 3 学期はどうでしたか。

大変満足	満足	やや不満	不満
9	2	0	0

2. コメントなどありましたら、自由に書いてください。

コメント

大変満足：

- Covered a lot of topics and learned a lot of vocabularies which is good but I found that the pace us a little bit quick. The lesson on business Japanese will help me in my work place and the topics are interesting. (多様なトピック、多くの語彙を網羅できてよかったが、進行が少し早かった。ビジネス日本語は仕事で役立ちそうだし、トピックとして面白かった)
- Business Japanese study was very interesting and useful. I also enjoyed the novel reading a lot. (ビジネス日本語はとても興味深かったし、有用だった。小説を読んだのも面白かった)
- 小説を読むことはすごかったのしかった。
- Overall, I was very satisfied. There was nothing to be desired. The teacher was very enthusiastic and enjoyed teaching. Students were also very proactive. (全体的にとっても満足のいくコースだった。これ以上は望めない。先生は情熱を持って授業に臨み、楽しんでいて。受講生も非常に積極的だった)
- Short story reading was very good. More politics and current affairs, please. (短編小説がとてもよかった。もっと政治的な内容や時事問題を勉強したい)
- 先生が作ってくださったブックレット(授業の資料)が面白かったです。
- It was wonderful to have the opportunities to read a whole short story and discuss language + grammar points. Also wonderful was the focus on different aspects of Japanese culture issues, complemented with youtube videos. Thank you! (短編小説を丸々読んで言語や文法のポイントについて話し合えたのは素晴らしい機会だった。また、様々な文化的側面に、視覚教材を使って注目できたのも素晴らしかった。ありがとうございました)
- Found everything to be useful. But find pace a bit too fast... Anyway, thanks to Ono-sensei for being patient in teaching me during the last nine months.... (授業で扱ったことすべて、有用だったと思う。が、進行が少し早すぎた。9 か月の間、辛抱よく教えてくださった先生に感謝)
- Prob without presentation would be good idea. (発表はないほうがいいと思う)

満足：

- Lot of variety in topics, enjoyable. Would like to do more grammar reviews in class. (バラエティーに富んだトピックは楽しかった。クラス内でもっと文法の復習が出来たらよかった)
- Rather than presentations, would we do class discussion? I enjoyed reading Tony Takitani. (発表ではなくて、クラスで討論した方がいいのでは？短編を読むのは楽しかった)

W1	随筆	<ul style="list-style-type: none"> - コースオリエンテーション - 宮本輝「途中下車」を読む - 「日本映画祭」① 	ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。	
W2	ビジネス日本語 1	<ul style="list-style-type: none"> - 許可の貰い方 - 会社場面の聴解問題 - 敬語・ロールプレイ - 「日本映画祭」② 	①その場の状況や、聞き手に応じて、内容、話し方を調節することができ、その場の状況にふさわしい丁寧さの言葉遣いができる。(W2も同じ) ②映画に関する情報を要約することができる。③特定の映画について、明確に詳しく述べるができる。(②&③、W2からW6まで同じ)	
W3	2	<ul style="list-style-type: none"> - 論説体 - 日本式ビジネス交渉術 - 「日本映画祭」③ 	①その場の状況や、聞き手に応じて、内容、話し方を調節することができ、その場の状況にふさわしい丁寧さの言葉遣いができる ②ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。	
W4	3	<ul style="list-style-type: none"> - 論説体で書く(続き) - 新聞記事「性的少数者」を読む - 「日本映画祭」④ 	ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。	
W5	時事	<ul style="list-style-type: none"> - 新聞で米大統領選を追う - 記事「性的少数者」を読む(続き) - 「日本映画祭」⑤ 	①ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。②自分の考えや意見を正確に表現できる。また、複雑な筋立ての議論に対し、説得力をもって見解を提示し、対応できる。	
W6	アイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> - 論文「ジェンダーとアイデンティティ」を読む - 「日本映画祭」⑥ 	①ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。	
W7	映画	映画「まるごと」 作文「私の好きな日本映画」	①自分が関心を持つ話題について、明瞭、詳細に書くことができる	作文
W8	日本人	日本人とアイデンティティ - 日本人論「縮み志向の日本人」、新聞投稿記事「民族も国籍もあるがままに」を読む	①ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。 ②予め用意されたテキストから自然に離れて、聴衆が喚起した興味ある事柄に対応できる。そこで非常に流暢に、楽に表現ができる。	
W9	小説	<ul style="list-style-type: none"> - 夏目漱石「夢十夜」 	①ざっと目を通してだけで、長い複雑なテキストの重要事項を見定めることができる。 ②意味や文体の微妙な違いを味わい、明示的な意味と同時に暗示的な意味も味わいながら、さまざまなテキストを理解できる。	自己評価/ コース評価
W10	映画鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> - 「GO」映画鑑賞 ② 	①映画を見て、話の筋を追い、登場人物がどのように葛藤や障壁を乗り越えたかなどを理解することができる。②映画評を書くことができる	映画評

資料 5-2 使用教材

		Lesson content	使用教材	評価
W1	随筆	- コースオリエンテーション - 宮本輝「途中下車」を読む - 「日本映画祭」①	上級者向け日本語教材 日本文化を読む アルク出版 p. 8-11	
W2	ビジネス 日本語 1	- 許可の貰い方 - 会社場面の聴解問題 - 敬語・ロールプレイ - 「日本映画祭」②	1) 日本語で働く！ビジネス日本語 30 時間 p. 85-94「許可をもらう」 2) 「上級の力をつける 聴解ストラテジー」 凡人社 p. 3-12	
W3	2	- 論説体 - 日本式ビジネス交渉術 - 「日本映画祭」③	1) 「日本の社会と経済を読む」 p. 117-119 2) 「大学・大学院留学生の日本語 作文編」アルク出版	
W4	3	- 論説体で書く（続き） - 新聞記事「性的少数者」を読む - 「日本映画祭」④	1) 「大学・大学院 留学生の日本語 ① 読解編」 p. 14-15 2) 毎日新聞2016年5月16日 東京朝刊 「性的少数者 オネエ呼ばわり「不快」 テレビ番組が差別助長の恐れ」	
W5	時事	- 新聞で米大統領選を追う 記事「性的少数者」を読む（続き） - 「日本映画祭」⑤	東京新聞 2016 年 11 月 9 日 「米大統領に トランプ氏 逆転劇、世界に衝撃」	
W6	アイデン ティティ	- 論文「ジェンダーとアイデンティティ」を読む - 「日本映画祭」⑥	佐藤響子（2010）「メディアがつくる「ジェンダー」：恋愛小説—ことばがつくる親密な関係性」（中村桃子編『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社）	
W7	映画	映画「まるごと」 作文「私の好きな日本映画」	まるごと日本のことばと文化 中級 2 B 1 pp. 148-149, 155-157	映画紹介の 作文
W8	日本人	日本人とアイデンティティ - 日本人論「縮み志向の日本人」、 新聞投稿記事「民族も国籍もある がままに」を読む	THE ROUTELEDGE INTERMEDIATE-ADVANCED JAPANESE READER, p. 41-45	
W9	小説	- 夏目漱石「夢十夜」	高等学校 国語総合（第一学習社） p. 74-83	自己評価/ コース評価
W10	映画鑑賞	- 「GO」映画鑑賞 ②	映画「GO」 監督：行定 勲	映画評を書く

資料 6-1 四学期コース終了時（第九週）に施行したアンケート

三学期コース終了時のアンケート結果 （回答者：7名）

A. 今学期のコース構成や内容について、どう思いましたか。
(アンケート結果)

- Structure and content are OK. Probably trying to cover too many things in a short period time. (「構成と内容はまあまあ。短い期間に内容を詰め込みすぎたかも」)
- It is good to have contents from Newspaper or recent information. Structure is good. (「新聞記事や最新情報を内容に盛り込めたのはよかった。構成もよかった」)
- Good but perhaps too much was prepared for each class so we were unable to get through all the material. It was a shame. (「よかったけれど、毎回、授業内容が盛りだくさんすぎた。授業中に勉強できなかったページがあった」)
- The course covered various topics, and appropriately allocated to reading, free talking, grammar, listening comprehension, and writing. No more improvement is required. (「様々なトピックを網羅でき、読解、会話、文法、聴解、書く技術のすべてが適切に学べた。改善点はなし」)
- Enjoyed the non-structured presentations that we did for the Japanese film festival. The readings were interesting. Prefer this structure to textbooks. (「映画祭に関する短い発表が楽しかった。読み物も面白かった。こういうスタイルのほうが、教科書で勉強するよりいい」)
- 完璧でした。ありがとうございます。
- 先生が準備するときが大変です。ですけど、とても面白かった。
- Good. Teacher was always well prepared. I liked being able to go through so many different topics throughout the course. (「よかった。先生はよく準備してくる。コースを通して様々なトピックを勉強できるのはよかった」)

B. Can-do を達成できたと思いますか。

ほとんど達成できた	半分程度達成できた	あまりできなかった	全然	その他
6	1	0	0	0

資料 6-2 2016 年 4 学期 J F 講座終了時の全体アンケート

登録者数：11名、回答者数：7名

1. 2016 年 4 学期はどうでしたか。

大変満足	満足	やや不満	不満
7	0	0	0

2. コメントなどありましたら、自由に書いてください。

大変満足：

- Reading together. Discussion with classmates and Teacher. (クラスで一緒に読めたこと、クラスメートや先生と討論できたこと)
- Excellent course. I am interested in studying a little more business Japanese. (とてもよいコース。ビジネス日本語ももう少し勉強したいです)
- Everything was satisfactory. I can't think of any area requiring improvement. (すべてに満足。改善点は思いつけません)
- I enjoyed talking about the film festival. (映画祭について話し合ったのが面白かった)
- The lessons are interesting and covered a lot of variety of topics, allowing students to learn a lot of new things. (授業は面白かったし、バラエティーに富んだトピックを扱うことで、多くの新しいことが学べた)
- I find everything to be useful. Thanks to Ono-sensee for teaching me a lot of useful things this year! (学んだことすべてが有用。今年、役に立つことをたくさん教えてくださって大野先生。ありがとうございます)